



海

と

森

と

建築

近代を超越するか九州国

日本建築家協会(JIA) 全国大会 2010九州

10.07_{thu}, 08_{fri}, 09_{sat}

開催報告書



日本建築家協会(JIA)全国大会2010九州
開催報告書

目 次

開催概要	3
ご挨拶	4-5
会場図	6-7
大会プログラム	8-9
式典・基調講演・パーティー	10-13
シンポジウム	14-18
その他催し	19-20
公開審査	21-22
展示	23-25
会議等	26-27
会場内風景・制作物	28
海外からの参加	29-30
エクスカージョン	31
賛助会一覧	32-33
学生によるレポート	34-36
収支	37
記念写真	38

開催概要

- 会期： 2010年10月7日(木)～9日(土)
- 会場： 北九州国際会議場
西日本総合展示場
リーガロイヤルホテル(国際会議)
小倉ステーションホテル(レセプションパーティ)
西日本工業倶楽部(旧松本邸)(名誉会員の集い)
- 登録者数： 会員 502名
事務所署員・同伴者 29名
賛助会員 87名
海外参加者 AIA 3名
ASA 7名
KIRA 3名
KIA 6名
光州広域市 28名
- 主催： 社団法人 日本建築家協会
- 後援： 国土交通省、福岡県、北九州市、福岡市
(社)福岡県建築士会、(社)福岡県建築士事務所協会
(社)日本建築学会 九州支部、(社)日本建築積算協会 九州支部
(社)日本建築構造技術者協会 九州支部
(社)日本設備設計事務所協会 福岡県支部
(社)福岡県建設業協会 (財)福岡県建築住宅センター
(社)福岡県建築士会 北九州支部
(社)福岡県建築士事務所協会 北九州支部
北九州建築設計監理協会、北九州設備設計監理協会
(社)日本建築構造技術者協会 九州支部 北九州地区会
(社)福岡県建築士会 福岡支部
(社)福岡県建築士事務所協会 福岡支部
(社)佐賀県建築士会、(社)佐賀県建築士事務所協会
(社)長崎県建築士会、(社)長崎県建築士事務所協会
(社)熊本県建築士会、(社)熊本県建築士事務所協会
(社)大分県建築士会、(社)大分県建築士事務所協会
(社)宮崎県建築士会、(社)宮崎県建築士事務所協会
(社)鹿児島県建築士会、(社)鹿児島県建築士事務所協会
北九州商工会議所、北九州総合デザイナー協会
福岡経済同友会、日本放送協会(NHK)北九州放送局
RKB毎日放送、九州朝日放送(KBC)、テレビ西日本(TNC)、
FBS福岡放送、TVQ九州放送
朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、西日本新聞社、
日刊建設通信新聞社、九建日報社
- 協賛： (財)西日本産業貿易コンベンション協会、(株)建築家会館
三井生命保険(株)、TOTO(株)、西鉄旅行(株)

ご挨拶



大会委員長 西岡 弘

必ずしも恵まれた天候ではありませんでしたが、参加動員も予定を上回り、会場を一箇所に絞り込んだ事、各時間配分の厳守を徹底したことから、式典、レセプションも含めスムーズに進行し、全体として好意的な感想が多く、先ず成功の大会であったのではと自画自賛しております。これも関係者のご支援と、会員の身を粉にした準備の賜物であり深く感謝する次第です。

予定人数が倍近くになったウェルカムパーティ、辰野金吾氏設計になる松本邸でのフルートとピアノ演奏をバックにしての名誉会員の集い、姜 尚中先生の基調講演、600人を越える参加者にふく刺と九州各地の物産を、テーブル席で振舞ったレセプション、二次会の準備などどれも参加者から好評で、どの企画もまずまずの動員で、関係者一同ほっとしております。これも北九州市を始め多くのご支援と、会員のご協力があつての事で、深く御礼を申し上げます。

九州支部はこの大会を機に、益々力を結集し、姜先生のご指摘を参考に、従来から続けてきた九州支部としての独自性をより鮮明にし、建築家職能向上へのリアリティの有る活動へとシフトしていく事に、私も少しでもお役に立てるように老体に鞭を入れる所存です。

厳しい経済環境下で多大なご支援を賜りました北九州市を始め、各企業団体個人の皆様そして九州支部会員の皆様に厚く御礼申し上げます。又開催の情宣に御尽力いただきましたジャーナリズムの皆様、ご多忙の中コーディネーターやパネリストなどで大会にご参加いただいた方々に厚く御礼を申し上げます。

大会のテーマから、会員そして協力していただいた皆様方が寿山福海であらん事を祈念して大会の御礼とご報告と致します。

ご挨拶



九州支部長 市川 清貴

今大会は600名を越える会員に参加いただきました。西日本産業貿易コンベンション協会様の取り計らいで、会場を北九州国際会議場にて開催しましたが、一般市民に開かれた催しであることが条件でした。この事をJIAを社会に発信する絶好の機会と捉え、式典・臨時総会などの内部向けのイベント以外はすべて一般市民に開放しました。特に姜 尚中氏の基調講演、谷口吉生氏の講演は一般市民から将来を担う建築分野の学生まで大勢の方々に参加いただきました。

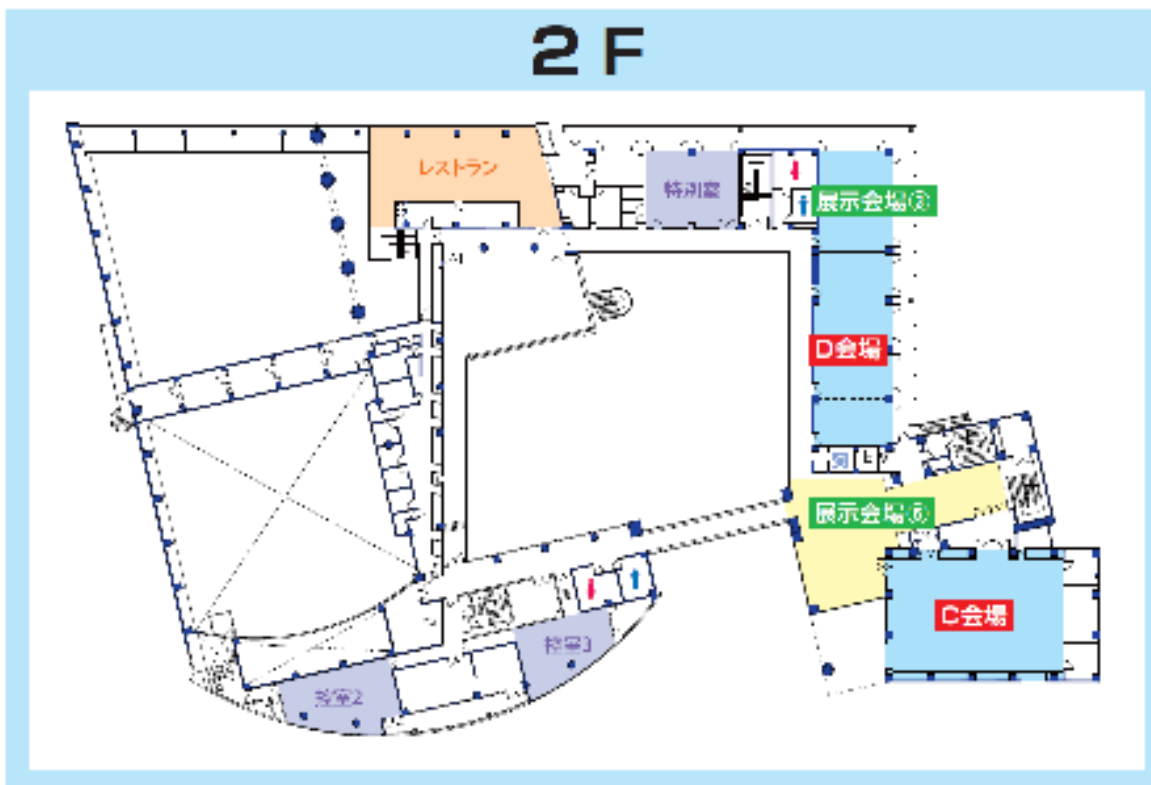
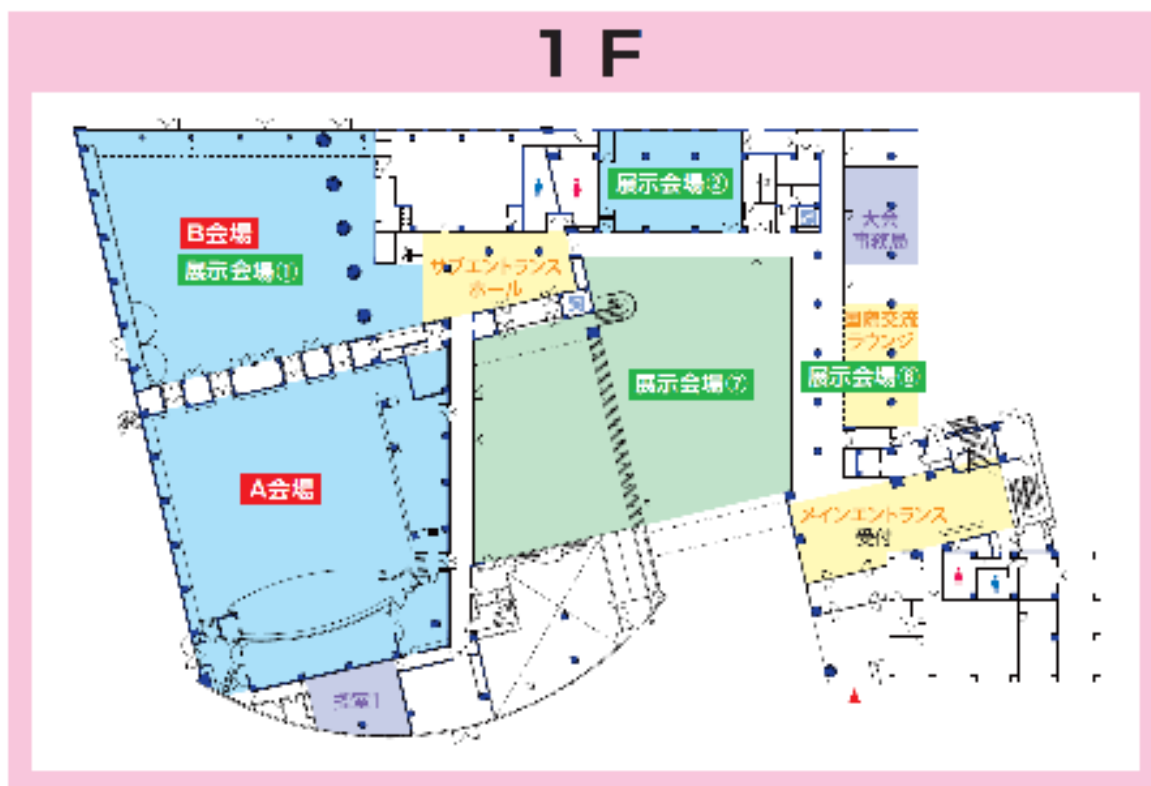
会員の皆様には遠路ご参加いただき本当にありがとうございました。紙面をお借りして御礼申し上げます。



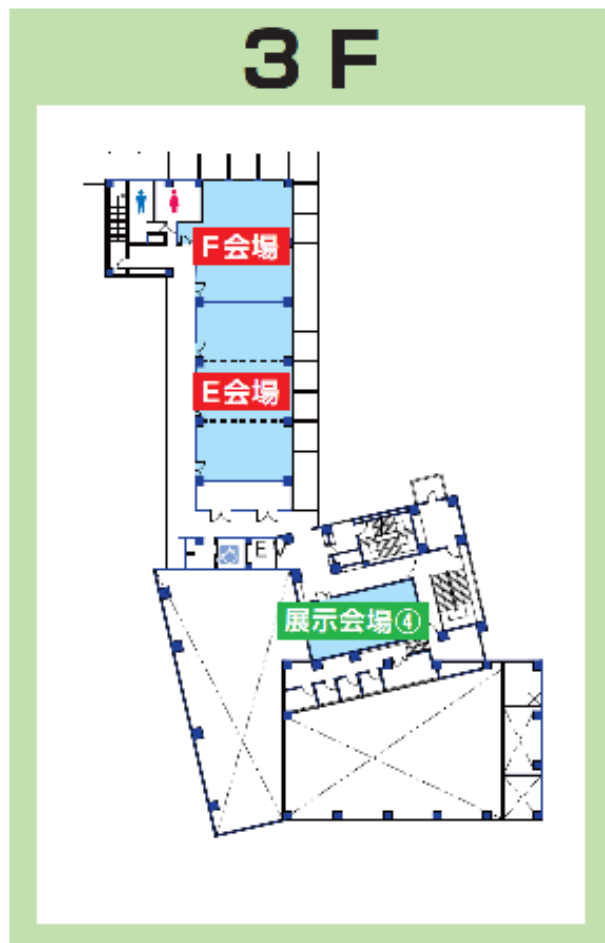
全国大会実行委員長 田島 正陽

大会に参加いただいた600名を超える全国の会員各位にお礼申し上げます。そして開催地北九州市をはじめ多くの関連団体企業の皆さんには多大なるご支援いただき深く感謝の意を表します。一般市民の参加のもと姜尚中さんの基調講演の会場は満席となり、この大会を成功に導いてくれた弾みになったと思います。また多くのプログラムも盛況でした。極めつけはレセプションで河豚を用意したことでしょう。全国行脚の公約でした。そして着席での宴としたことは大変好評でしたが出席できなかった方には失礼をしました。この大会は準備の為若い方々が精力的によく頑張ってくれました。将来九州での大会があるときはこの経験がきっと役に立つてくれることを確信しております。

会場図 北九州国際会議場



会場図 北九州国際会議場



大会プログラム

北九州国際会議場					
	A会場	B会場	展示会場1	C会場	展示会場2
	メインホール	イベントホール		国際会議室	会議室No.11
10/7(木)	13:00-17:00 シンポジウム 「環境都市をめざして」	13:00-17:00 新人賞 公開審査	13:00-17:00 展示 JIA新人賞、U-4コンペ作品、 UIA東京大会紹介 九州・韓国学生ワークショップ、 建築相談展示	13:00- 15:00 理事懇談会	13:00- 17:00 国際交流展
	18:00-20:00 名誉会員の集い(西日本工業倶楽部(旧松本邸))				
10/8(金)	7:00-11:15 国際会議(リーガロイヤルホテル小倉 会議室)				
	12:00-14:00 臨時総会	9:00-13:00 九州・韓国 学生ワーク ショップ	9:00-17:00 展示 JIA新人賞、U-4コンペ作品、 UIA東京大会紹介 九州・韓国学生ワークショップ、 建築相談展示	9:00-13:30 シンポジウム 「エコハウス 20のチャレ ンジを検証 する」	9:00-17:00 国際交流展
	14:00-17:30 式典・基調講演 講師:姜尚中 氏				
	18:00-21:00 レセプションパーティ(小倉ステーションホテル)				
10/9(土)	9:30-11:30 25年賞シンポジウム 講師:谷口吉生氏	9:00-12:00 環境建築賞 公開審査	9:00-17:00 展示 JIA新人賞、U-4コンペ作品、 UIA東京大会紹介 九州・韓国学生ワークショップ、 建築相談展示	9:00-12:00 建築と 子どもたち 会議	9:00-17:00 国際交流展
	12:00-14:30 職能シンポジウム 「2011年の建築家」	13:00-17:00 U-4コンペ 公開審査			
	15:00-17:30 保存と再生 シンポジウム				
エクスカーショ					
A コース 関門ツアー 1日間 門司港レトロ散策と唐戸市場		B コース 関門ツアー 半日間 門司港レトロ散策と唐戸市場		C コース 筑豊近代遺産ツアー 1日間 嘉穂劇場と旧伊藤伝衛門邸	

大会プログラム

D会場	展示会場3	展示会場4	E会場	F会場	展示会場5	展示会場6	メインエントランス	展示会場7
会議室No.21	会議室No.22	会議室No.31	会議室No.32	会議室No.33	サブホワイエ	国際交流ラウンジ	受付	中庭
16:00-17:30 支部長・理事OB会	13:30-17:00 作品展 [建築家のあかりコンペ]	13:00-17:00 アーカイブス展示	13:30-15:30 UIA大会 推進懇談会・特別会議	15:30-17:30 建築相談室 連絡会	13:00-17:00 建築九州賞展 エコハウス展 夢のエコタウン模型展示	13:00-17:00 JIA cafe shop 賛助会展示	13:00-17:00 受付	13:00-17:00 九州・韓国学生ワーク ショップ フォーリー、インсталレーション展示
18:00-20:00 ウェルカムパーティ(フラミンゴカフェ)								
7:00-11:15 国際会議(リーガロイヤルホテル小倉 会議室)								
9:00-11:30 BIMセミナー	9:00-17:00 作品展 [建築家のあかりコンペ]	9:00-17:00 アーカイブス展示	9:00-11:30 全国各地会議	9:00-11:30 アーカイブスシンポジウム	9:00-17:00 建築九州賞展 エコハウス展 夢のエコタウン模型展示	9:00-17:00 JIA cafe shop 賛助会展示	9:00-17:00 受付	9:00-17:00 九州・韓国学生ワーク ショップ フォーリー、インсталレーション展示
9:00-17:00 BIMに関する展示とプレゼンテーション								
18:00-21:00 レセプションパーティ(小倉ステーションホテル)								
9:00-12:00 賛助会サミット	9:00-17:00 作品展 [建築家のあかりコンペ]	9:00-17:00 アーカイブス展示	9:00-11:30 災害対策シンポジウム1	14:30-16:30 JIA住宅部交流会	9:00-17:00 建築九州賞展 エコハウス展 夢のエコタウン模型展示	9:00-17:00 JIA cafe shop 賛助会展示	9:00-17:00 受付	9:00-17:00 九州・韓国学生ワーク ショップ フォーリー、インсталレーション展示
13:00-17:00 あかりコンペ公開審査			12:30-15:30 災害対策シンポジウム2					
			17:00-19:00 U-40建築家会議					

D コース
北九州エコツアー 半日間
北九州エコハウス見学と北九州市立大学

E コース
産業観光ツアー
TOTO小倉工場見学

式典・基調講演・パーティー

◆国際交流展テープカット 10月8日（金）8:00～8:30 北九州国際会議場イベントホール



◆式典 10月8日（金）14:30～15:50 北九州国際会議場メインホール

CPD: 6単位(式典+基調講演)
 単位申請者数: 325人(式典+基調講演)
 司会 桧山 千尋(NHKアナウンサー)



開会挨拶	大会委員長 西岡 弘	
会長挨拶	JIA会長 芦原 太郎	
来賓挨拶	国土交通省 川本 正一郎 住宅局長 (代読: 井上 勝徳 建築指導課長)	
	北九州市 北橋 健治市長	
来賓紹介	タイ王立建築家協会	タウィーチット・チャンタラサー会長
	アメリカ建築家協会(AIA)	クラーク・マヌス次期会長
	韓国建築家協会(KIA)	イ・サンリム会長
	大韓建築士協会(KIRA)	チェ・ヨンジップ会長
	(社)日本建築士事務所協会連合会	三栖 邦博会長
	(社)日本建築士会連合会	錦織 亮雄副会長
名誉会員表彰	(社)日本建築家協会	神谷 宏治、錦織 亮雄
	大韓建築士協会(KIRA)	チェ・ヨンジップ会長
閉会挨拶	JIA九州支部長	市川 清貴
閉会		
特別講演	アメリカ建築家協会(AIA)	クラーク・マヌス次期会長



式典・基調講演・パーティー

◆基調講演 「九州共同体構想—東アジアのゲイトウェイ」

姜尚中氏（東京大学大学院情報学環 教授）

10月8日（金）16:00～17:30 北九州国際会議場メインホール

単位申請者数： 325人(式典+基調講演)

一般登録者数： 167人

8日の大会式典後に行われた基調講演は姜尚中氏。一般市民も列ができるほど詰めかけ、メインホールは一杯になった。現在、東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授の姜氏は熊本出身で、「こと熊本に関しては、冷静でいられない」そうだ。九州支部会員が高校の後輩だったことで、この講演が実現した。姜氏は建築家について、「空間をデザインするだけではなく、社会環境と結びついている。四大プロフェッションの中で最も広い領域にかかわっている垂涎の的の自由業」と鼓舞する。「日本の最大の課題は、中央と地方、あるいは太平洋ベルト地帯の6000万人とそれ以外の6000万人の格差。閉塞状況の打開策としてFTA(自由貿易協定)で日本1億2000万人、韓国5000万人の1億7000万人の市場をつくる。海底トンネルで日韓を結び、九州は東アジアに近いというアドバンテージを生かし、観光と農業を結びつけたランドスケープを創出する」。父と母を語り、「2つのふるさとを持つ自分は日韓を結ぶのが役割」という。磯崎新らと九州(福岡)へのオリンピック招致に奔走し、敗れた。「今度は日韓共同開催を」。最後に「九州が変われば、東京以外の地域が大きく変わる」と力を込め、大きな拍手が沸き起こった。(JIA NEWS 2010年11月30日臨時号より 文：西川直子(建築ジャーナル))



◆記者会見

10月8日(金)17:30～18:30

北九州国際会議場イベントホール



式典・基調講演・パーティー

◆名誉会員の集い

10月7日(木) 18:00~20:00 西日本工業倶楽部

大会初日、夕刻から「名誉会長の集い」が北九州市戸畑区にある、国の重要文化財、辰野金吾先生設計の西日本工業倶楽部(アールヌーボ様式)(旧松本邸)でクラシック生演奏の中執り行われ、海外の方々も大変喜んで頂いた。

お一人お一人の建築家としての生き方を拝聴でき、私たちが健康に気遣って、頑張って建築家の使命を果たし、こうしてJIAの名誉会員になることができれば、なんと幸せだろうかと思える一瞬であった。



◆ウェルカムパーティー

10月7日(木) 18:00~20:00

フラミンゴカフェ(アジア太平洋インポートマート2F)

開催直前まで、参加人数の全体像は把握できず当日の申込みは全て受け入れたため事前登録者を含めると、200名近くになった。当日申込みが20名程度と予測していたが、40名の申込みがあり、急遽席を設置して何とか全員に座って頂く事が出来たが、後から後から入ってくるお客さんで、私も店の方も冷や汗ものであった。

ほとんどボランティアでやっていただいたバンドの皆さんや、地域会からの持ち込みの酒や、おつまみのおかげでいい会になったと思います。会の運営を担当していただいた支部の方、場を盛り上げていただいた他支部の皆さん、そしてフラミンゴカフェのスタッフの皆さん本当にありがとうございました。



式典・基調講演・パーティー

◆レセプションパーティー

10月8日（金）18:00～21:00 小倉ステーションホテル

開会の挨拶 大会実行委員長 田島 正陽

主催者挨拶 JIA会長 芦原 太郎

来賓挨拶 北九州市 北橋 健治 市長
福岡県 麻生 渡 知事
（代読 山崎 建典 副知事）
韓国建築家協会(KIA) イ・サンリム会長
大韓建築士協会(KIRA) チェ・ヨンジップ会長
TOTO株式会社 伊藤 健二 代表取締役副社長



鏡開き 国土交通省九州地方整備局 営繕部 川元 茂 部長
福岡県 山崎 建典 副知事
北九州市 北橋 健治 市長
（財）西日本産業貿易コンベンション協会 重淵雅敏 会長
TOTO株式会社 伊藤健二 代表取締役副社長
北福岡会建賛会 小林法祥 実行会長
アメリカ建築家協会(AIA) クラーク・マヌス 次期会長
アメリカ建築家協会(AIA) ジョン・メーダー 日本支部長
タイ王立建築家協会 タウィーチット・チャンタラサカー 会長
韓国建築家協会(KIA) イ・サンリム 会長
大韓建築士協会(KIRA) チェ・ヨンジップ 会長
（社）日本建築士事務所協会連合会 三栖 邦博 会長
（社）日本建築士会連合会 錦織 亮雄 副会長
UIA2011東京大会 小倉 善明 日本組織委員会 会長
JIA 芦原 太郎 会長
大会委員長 西岡 弘
JIA 市川 清貴 九州支部長

乾杯挨拶 （社）日本建築士事務所協会連合会 三栖 邦博 会長

歓談・会食、とらふく刺しの実演、女性祇園太鼓：女無法松の会演舞

UIA2011東京大会についての挨拶

UIA2011東京大会 小倉 善明 日本組織委員会 会長

中締め JIA九州支部北福岡会 服巻 良樹 代表幹事

閉会



シンポジウム

環境都市をめざして

10月7日(木) 13:00 ~ 17:00
北九州国際会議場 メインホール

CPD: 8単位
単位申請者数: 111人
一般参加者数 85人

第1部

※講師
小林 光(環境省事務次官)
中村 勉(JIA環境行動ラボ委員長)
※モデレーター
井口 直巳(JIA環境行動ラボ副委員長)

第2部

※パネリスト
今永 博(北九州市建築都市局長)
山本 忠明(株TOTO CSR推進部部长)
デワンカー・バート(北九州市立大学 准教授)
諸藤 見代子(北九州市環境ミュージアム館長)
※コーディネーター
西岡 弘(大会委員長)



大会の初日のシンポジウムであった「環境都市を目指して」は二部構成で実施された。一部は環境省事務次官小林光氏とJIA環境行動ラボ代表中村勉氏からの環境都市づくりにむけた話題提供の講演。二部は西岡大会委員長のコーディネートによるパネルディスカッション形式で、環境都市づくりに取り組んでいる北九州市の今永建築都市局長をはじめ地元企業代表のTOTO山本部長、北九州市立大のバート先生、北九州環境ミュージアムの諸藤館長らがパネリストとして参加していただいた。300人を超える聴衆が集まり、本大会のテーマのポイントである森と海などの自然環境と建築の共生を巡る議論が繰り広げられた。



シンポジウム

エコハウス シンポジウム 「エコハウス20のチャレンジを検証する」

10月8日(金) 9:00 ~ 13:30
北九州国際会議場 国際会議室

CPD: 8単位
単位申請者数: 149人
一般参加者: 47人

シンポジウム「エコハウス20のチャレンジを検証する」 出席者リスト



シンポジウム「エコハウス20のチャレンジを検証する」は「21世紀環境共生型住宅のモデル整備による建設促進事業」(略称「環境省エコハウスモデル事業」)で選出され、昨年度末に建設された20自治体のエコハウスで得られた知見や成果を発表しあい、交流する企画として開催された。当初の予定を上回り会場に入りきれないほどの参加者が集い、パワーポイントによる各地域からの報告と発表を巡る討論が繰り広げられた。環境省からゲストとして小林事務次官らが参加し環境行動ラボのスタッフの運営で、シンポジウムはまとめられ、九州大会での宣言文を採択し、今後のエコハウスに対する理解を広め、普及を促進する活動方針を参加者全員で確認しあった。

環境省、コメンテーター	
所属	名前
環境省	小林 光
環境省中部地方環境事務所	細川 真宏
地域選定審査委員長	三井所 清典
地域選定審査委員	宿谷 昌則
北九州市環境ミュージアム	諸藤 見代子
北九州市立大学	龍 有二
JIA環境行動ラボ	中村 勉
JIA環境行動ラボ	林 昭男

JIA環境行動ラボ シンポジウム運営担当
井口 直巳
大角 雄三
篠 節子
寺尾 信子
袴田 喜夫
柳澤 力

JIA環境行動ラボ
青山 善嗣
新居 照和
内野 輝明
大野 二郎
栗林 賢次
河野 進
児玉 欽司
小室 雅伸
菅家 克子
中村 亨一
長井 淳一
松下 重雄

地域	自治体		設計者	
	所属	名前	所属	氏名
下川町	建設材務課	勝元 則雄	アトリエmomo	櫻井 百子
	(財)下川町ふるさと開発振興公社	相馬 秀二		
美幌町	経済部長	平野 浩司	堀尾浩建築設計事務所	堀尾 浩
山形県	生活環境部地球温暖化対策課	洪江 光晴	羽田設計事務所	水戸部 裕行
			羽田設計事務所	安達 和之
			羽田設計事務所	金子 祐司
飯館村	飯館村長	菅野 典夫	豊田設計事務所	豊田 善幸
	までいな暮らし普及センター	佐藤 周一		
	産業振興課	高橋 栄二		
矢板市	経済建設部 農務課	永井 進一	フケタ設計	永田 英雄
	経済建設部 農務課	高久 英治	フケタ設計	和氣 文輝
太田市			須田建築計画工房	須田 晋一
石川県	環境部 地球温暖化対策室	新 広昭	金沢計画研究所	野々村 慎二
都留市	NPO フィールド21	白井 明好	馬場設計	奥村 一利
山梨市	環境課	岡 富美雄		
飯田市	産業経済部 商業・市街地活性化課	遠山 広基	新井建築工房+設計同人NEXT	新井 優
浜松市	環境部 環境企画課温暖化対策グループ	岡田 真人		
近江八幡市	総合政策部 政策推進課	伴 浩和	片淵建築事務所	片淵 良
	総合政策部 政策推進課	岡村 泰孝	片淵建築事務所	水谷 恵美
豊岡市	建築住宅課	武中公一		
	建築住宅課	小椋 信男		
備前市	市民生活部 環境課	大西 健夫	岸本泰三建築設計室	岸本 泰三
高知県	商工労働部 新産業推進課	保科 公彦	細木建築研究所	細木 茂
			勇工務店	塩見 耕平
北九州市	環境局環境政策部 環境学習課	石井 佳子	醇建築まちづくり研究所	牧 敦司
	環境局環境政策部 環境学習課	加地 祐毅		
	環境局環境政策部 環境学習課	伊東 信二		
	建築都市局 住宅部住宅整備課	下田 朝康		
水俣市			すまい塾古川設計室	古川 保
豊後高田市			徳永敬之設計工房	徳永 敬之
			安藤剛設計室	安藤 剛
宮古島市			NPO蒸暑地域住まいの研究会	伊志嶺 敏子
研究者				
北九州市立大学				福田 展淳

シンポジウム

アーカイブス シンポジウム 「近現代建築の理解と活用」

10月8日(金) 9:00 ~ 11:30
北九州国際会議場 会議室No.33

CPD: 6単位
単位申請者数: 38人
一般参加者: 約50人

※パネリスト

額原 澄子(九州産業大学 専任講師)

平瀬 有人(佐賀大学 准教授)

倉方 俊輔(西日本工業大学 准教授)

※コメンテーター

仙田 満(JIA元会長/JIAアーカイブ委員長)

遠藤 勝勸(JIA会員)

※コーディネーター

鮎川 透(JIA九州支部会員)



パネリストの倉方俊輔氏は、「アーカイブは、集めるより置くということ。取っておくという発想が大事」と指摘。

JIA25年賞シンポジウム 谷口吉生氏「私の建築—25年前と今」

10月9日(土) 9:30 ~ 11:30
北九州国際会議場 メインホール

CPD: 4単位
単位申請者数: 243人
一般参加者: 約300人

※基調講演

谷口 吉生(JIA会員)

※対談

谷口 吉生 VS.

小倉 善明

(JIA元会長/UJA2011東京大会日本組織委員会会長)

※司会

福島 加津也(JIA会員)



「25年間変わっていませんね」。「資生堂アートハウス」(1976)でJIA25年賞を受賞した記念講演。決まった型はなく、周辺環境、与件、動線に沿って変化する光や景色を大切にする。若い頃は「アーキグラムなどが注目され、アーバンデザイン、都市デザインの時代。ハーバードでの教育方針や勤めた丹下研究室の影響もある」。後半は小倉善明氏が聞き手に。「ほんとは少しずつ変わっているのだが、変わらないことを私の特徴としている。まわりが変わりすぎるから。」話すが苦手だから講演はほとんどしないと言うが、ユーモアも交えつつ、平易かつブレない語り口に魅了された。(JIA NEWS 2010年11月30日臨時号より 文:西川直子(建築ジャーナル))

シンポジウム

職能シンポジウム 「2011年の建築家」

10月9日(土) 12:00～14:30
北九州国際会議場 メインホール

CPD: 6単位
単位申請者数: 185人
一般参加者: 約150人

※パネリスト

神田 順(東京大学教授)
趙 翔(JIA九州支部会員/福岡大学 准教授)
李 昌律(大韓建築士協会 副会長)

※コーディネーター

芦原 太郎(JIA会長)
※来賓挨拶(ビデオ出演)
馬淵 澄夫(国土交通省大臣)



ビデオレターで馬淵澄夫国土交通省大臣は安心安全で豊かな国民生活のために新たなしくみづくりを行うと明言。神田順氏はガリレイの言葉「自分の目で検証せよ」を引き、専門家が法律に合わせるために汲々としている現状を指摘。一方中国出身の趙翔氏は、「人口13億人に対し中国の登録建築師は1万6,900人」。大韓建築士協会の李昌律氏は、「大統領が先頭に立って建築基本法を制定した」と説明。最後に芦原太郎会長が「両国とも建築を戦略的に活用している。この点をわが国は学ぶべきとまとめた。(JIA NEWS 2010年11月30日臨時号より 文:西川直子(建築ジャーナル))

保存と再生 シンポジウム

10月9日(土) 15:00～17:30
北九州国際会議場 メインホール

CPD: 6単位
単位申請者数: 107人
一般参加者: 約100人

※基調講演講師

長島 孝一(JIA名誉会員)

※パネリスト

松永 守央(九州工業大学 学長)
宮武 正三(北九州市建築都市局 指導部部長)
開田 一博(福岡県建築士会 北九州支部長)
倉方 俊輔(西日本工業大学 准教授)

長島 孝一(JIA名誉会員)

※コーディネーター

鯉坂 徹(JIA再生部会長)



基調講演で長島孝一氏は、英国・北ウェールズで夏の家を建てた経験から、「計画専門官は、市民社会の価値観を自律した個人として体現している」。後半のシンポジウムでは、九州工業大学の近代建築や、八幡、門司などの産業遺産を保存活用した例が語られた。なかでも門司ゴルフクラブハウス(レーモンド)が冷房なしでも快適で、大らかな空間が大切に使われていたり、若松の古いビルが若い女性によって雑貨店や美容院に活用されたりと、市民意識の萌芽が明るい話題として注目を集めた。(JIA NEWS 2010年11月30日臨時号より 文:西川直子(建築ジャーナル))

シンポジウム

災害対策シンポジウム1 「災害時における支援活動を語ろう」

10月9日(土) 9:30 ~ 11:30
北九州国際会議場 会議室No.32

CPD: 3単位
単位申請者数: 23人
一般参加者: 約10人

※パネリスト

庫川 尚益(JIA災害対策委員長)
中田 準一(JIA災害対策委員会相談役)
田中 浩(JIA九州支部会員)
岡部 則之(JIA会員)

災害対策シンポジウム2 「災害復興期における建築家の関わり方」

10月9日(土) 12:30 ~ 15:30
北九州国際会議場 会議室No.32

CPD: 2単位
単位申請者数: 18人
一般参加者: 約10人

※パネリスト

内田 雄蔵
(東洋大学 教授/
前日本建築学会特別委員会委員長)
岡田 知子(西日本工業大学 教授)
三井所 清典(JIA会員)
加藤 武弘(JIA九州支部会員)、ほか

午前の部Ⅰ、午後の部Ⅱとして二部に分けて実施された。Ⅰでは中田準一会員がJIAのこれまでの取組みについて報告、次に庫川尚益会員がBCP(事業継続計画)の課題について、田中浩会員が福岡の西方沖地震時の地元の取組みについて報告した。Ⅱでは内田雄蔵先生が山古志の事例を引きながら災害復旧事業の課題を述べ、三井所清典会員が山古志の復興住宅設計の経過を報告、岡田知子先生が玄界島の復興の問題点を述べ、加藤武弘会員がJIAとしての復興計画提案の内容を報告した。



その他催し

九州・韓国学生ワークショップ

10月8日(金) 9:00 ~ 13:00
北九州国際会議場 イベントホール

CPD: 4単位
単位申請者数: 44人
学生のべ参加者数: 約50人

※審査員
横河 健(JIA会員)
南 勝震(韓国 東亜人材大学 教授)

エントリーは12大学、16チームで8月初旬に行われた
第1次審査で7作品を選出

九州大学
九州工業大学Aチーム
九州工業大学Bチーム
釜山大学
九州共立大学
北九州市立大学
日本文理大学



(8月5日 1次審査)

九州、韓国の大学生が参加した学生ワークショップも、最終審査を迎えた。
「海と森と建築」をテーマに創意工夫で作成したフォーリーをプレゼンテーションし、
審査の先生から意見をいただき、学生達にも有意義な審査となった。
最優秀賞:「football house」を作成した九州工業大学建築計画研究室Aチーム
優秀賞:「many a little makes a miracle」を作成した北九州市立大学S346チーム

BIM セミナー及び展示 「IPD(統合的業務推進)の実践に向けて」

10月8日(金) 9:00 ~ 11:30(展示は17:00まで)
北九州国際会議場 会議室No.21

CPD: 3+展示1単位
単位申請者数: 41人+展示21人

※講師
大西 康伸(熊本大学 助教)
※パネリスト
三浦 豪介(三浦設計)
完山 剛(atelier SWITCH)
新田 唯史(美保テクノス株式会社)
長島 博務(ldream一級建築士事務所)
※コーディネータ
榊原 克己(IP-WG委員 ㈱CIラボ)



「BIMが建築教育を変える」をテーマに大西康伸熊本大学助教が講演し、BIM実践の設計者によるシンポジウム。BIM(ビルディング・インフォメーション・モデリング)に関する展示を行った。

その他催し

建築と子どもたち会議

10月9日(土) 9:00～12:00

北九州国際会議場 国際会議室

CPD: 3単位
単位申請者数: 31人
一般参加者数: 約100人

鞘が谷(さやがだに)小学校ワークショップ

※基調講演: 稲葉 武司(JIA建築と子どもたち会議議長)

※コーディネーター: 水野 宏(JIA九州支部会員)



子ども建築教育支援活動をネットワーク化するために、建築と子どもたち会議が設けられた。大会に先立ち、北九州市立鞘ヶ谷(さやがだに)小学校で「夢のエコタウンをつくろう」ワークショップが開かれた。その結果を熱心に発表する子どもたちの姿が印象的な会議だった。基調講演では稲葉武司氏が内外の子ども建築教育プログラムについて論じた。

(JIA NEWS 2010年11月30日臨時号より 文: 西川直子(建築ジャーナル))

賛助会サミット

10月9日(土) 9:30～12:00

北九州国際会議場 会議室No.21

単位申請者数: 11人
一般参加者数: 72人

※メンバー

矢作 昌生(JIA九州支部会員)、長崎 秀人(株長崎木材店)

土佐 弘(株栄住産業)、松矢 篤志(田島ルーフィング(株))

家元 あき(大光電機(株))、宇都 正行(株栄住産業)

鎌田 廣(パナソニック電工(株))、記伊 哲成(YKKAP(株))

※コーディネーター

西岡 弘(大会委員長)



賛助会サミット「良い家を作るには」

補助椅子を大幅追加しなければならない程多入り満員で、関心の高さがうかがわれた。

会場からも意見が活発に出て、バトルトークまではいかなかったが、当初の目的は果たせたようだ。

U-40 建築家会議

10月9日(土) 17:00～19:00

北九州国際会議場 会議室No.32

CPD: 2単位
単位申請者数: 18人
一般参加者数: 40名



今年2回目となるU-40全国会議、呼びかけに応じて全国より若手建築家が集まり、テーマ『2030年へ～50人の建築家の提言』について熱い議論が展開された。スイス連邦工科大学からの2名の若手ゲストも会議に彩を添えた。

公開審査

第11回 JIA 環境建築賞 入選作品公開審査会

10月9日(土) 9:00 ~ 12:00
北九州国際会議場 イベントホール

CPD: 6単位
単位申請者数: 95人

※審査委員長
野沢 正光(JIA会員)
※審査員
三井所 清典(JIA会員)



一次選考を経て現地審査まで終了した入選者がプレゼンテーション。

「建築家のあかりコンペ」公開審査

10月9日(土) 13:00 ~ 17:00
北九州国際会議場 会議室No.21

CPD: 4単位
単位申請者数: 43人

※審査委員長
古谷 誠章(JIA会員)
※審査員
内原 智史(ライティングデザイナー)
前芝 辰二(大光電機株 代表取締役)
乾 久美子(JIA会員)
西沢 大良(JIA会員)
※特別審査委員
芦原 太郎(JIA会長)



建築家のあかりコンペ2010の最終審査は、9/1の一次審査で入選した9作品を公開に行った。最優秀作品には、球体のスリット幅を変えることで調光させる北海道の諸澤良浩氏の「有明の月」が選ばれた。

公開審査

新人賞公開審査

10月7日(木) 13:00～17:00
北九州国際会議場 イベントホール

CPD: 4単位
単位申請者数: 54人
一般参加者数: 約100人

※審査員
梅沢 良三(JIA会員)
吉松 秀樹(JIA会員)
東 利恵(JIA会員)

書類審査に通った中から、宮晶子、前田圭介、岡田哲史・陶器浩一、米田明、中村拓志の5組が選ばれ、現地審査に進んだ。



U-40コンペ公開審査

10月9日(土) 13:00～17:00
北九州国際会議場 イベントホール

CPD: 4単位
単位申請者数: 89人
一般参加者数: 約150人

※審査委員長
手塚 貴晴(JIA会員)
※審査員
諸藤 見代子(北九州市環境ミュージアム館長)
横矢 順二(北九州市建設局後援緑地部長)
嘉福 諒二(北九州市建築都市局建築部長)
末廣 香織(JIA九州支部会員)



U-40コンペ(北九州市公園トイレ提案設計競技)公開審査は10月9日。入選者プレゼンテーションの後審査にうつる。審査は手塚委員長のリードのもと議論が白熱し充実した。最優秀案(高橋彰子氏案)決定の課程はとてもスリリングな展開だった。実現が待ち遠しい。

展示

アーカイブスパネル展示

北九州国際会議場 会議室No.31

菊竹清訓設計、福岡県久留米市文化会館の図面の展示。手書きの青焼き図面には、打合せの記録や変更の内容も記されており、設計者の息使いが感じ取れる。建築を学んでいる学生が食い入るように見ていたのが印象的であった。

U-40コンペ作品展示

北九州国際会議場 イベントホール

大会期間中、U-40コンペ入賞作品10点の展示を行なった。どの案も若き提案者の意欲や真摯さが感じられ、多様なアイデア、多彩な表現は見るだけで楽しいものであった。展示場所が良く多くの方に見て頂いていたことに安堵した。

国際交流展

北九州国際会議場 会議室No.11

JIA九州支部福岡会とKIRA(大韓建築士協会)光州広域市建築士会の交流は、昨年10周年を迎えた。建築展という形で開催を交互に行い、人と作品が海を越えている。

賛助会展示

北九州国際会議場 国際交流ラウンジ

九州支部北福岡会「建賛会」による北九州市「環境モデル都市」の取り組み方針に沿った建築材料、製品、工法の紹介と展示。併設したカフェも好評だった。

九州・韓国学生ワークショップ展示

北九州国際会議場 中庭(フォーリー)
イベントホール(応募作品展)

大会会場の中庭を、学生ワークショップへ参加した日韓の大学生が作成した個性豊かなフォーリーが彩った。雨により幾つかのフォーリーが倒壊というアクシデントもあったが多くの来場者の目を楽しませる事ができた。

「建築家のあかりコンペ」作品展示

北九州国際会議場 会議室No.22

今年の“建築家のあかりコンペ2010”は、「現代の有明行灯」をテーマに、全79作品を展示した。作品内容は、建築家らしいユニークなアイデアが満載で、光源にはLED、有機ELなどの最新技術を使ったものが目立った。

建築と子どもたち会議 夢のエコタウン模型展示

北九州国際会議場 サブホワイエ

建築と子どもたち会議関連展示。北九州市立鞘ヶ谷(さやがたに)小学校ワークショップ「夢のエコタウンをつくろう」で子供たちが制作した大きな模型を展示した。

建築九州賞展

北九州国際会議場 サブホワイエ

JIA 新人賞作品展示

北九州国際会議場 イベントホール

UIA 東京大会紹介展示

北九州国際会議場 イベントホール

エコハウス 20 作品展示

北九州国際会議場 サブホワイエ

展示



(夢のエコタウン模型)



(アーカイブパネル展示)



(建築九州賞展)



(あかりコンペ作品展示)



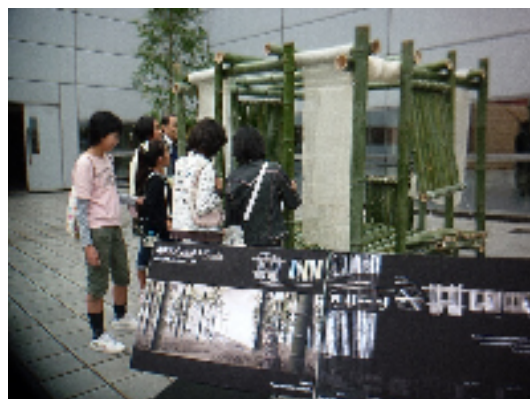
(国際交流展)

展示単位申請者数

アーカイブスパネル展示	131人
国際交流展	199人
建築九州賞展	150人
九州・韓国学生ワークショップ展示	136人
「建築家のあかりコンペ」作品展示	149人
イベントホール展示 ・JIA新人賞作品展示 ・U-40コンペ作品展示 ・UIA東京大会紹介展示	139人

九州・韓国学生ワークショップ および 中庭緑化展示

(屋外展示風景)



会議等

理事懇談会

10月7日(木) 13:00 ~ 15:00
北九州国際会議場 国際会議室



建築相談室連絡会議

10月7日(木) 13:30 ~ 17:30
北九州国際会議場 会議室No.33

単位申請者数： 17人

建築相談連絡会議(社会・公共グループ)として発足後、第2回目の連絡会議及び、建築相談室委員の交流会を行った。会議では「建築相談室規約(2010年4月1日制定)」改定の審議及び09年度の建築相談の分析報告等(イベントホールに展示)を行った。



建築相談の分析・アンケート調査の展示

UIA大会推進特別会議

10月7日(木) 15:30 ~ 17:30
北九州国際会議場 会議室No.32

CPD： 4単位
単位申請者数： 31人



会議等

臨時総会

10月8日(金) 12:00 ~ 14:00
北九州国際会議場 メインホール

会場出席者： 199人
委任状による出席者： 1166人



国際会議

10月8日(金) 7:00 ~ 11:15
リーガロイヤルホテル小倉 会議室

参加者数：

AIA-JIA会議 9人(日本7+アメリカ2)
FIKA-JIA会議 19人(日本12+韓国7)
ASA-JIA会議 15人(日本10+タイ5)



全国地域会会議

10月8日(金) 9:00 ~ 11:30
北九州国際会議場 会議室No.32

単位申請者数： 47人

二日目の臨時総会前に行われた会議は地域会の位置付けを中心テーマとして行われた。6つ程のテーブルに別れて各地域会の現状や今後の展望について意見が出された。地域会の役割や定款・会費改定・法人選択問題等が活発に意見交換が行われた。



JIA住宅部会

10月9日(土) 14:30~16:30
北九州国際会議場 会議室No.33

単位申請者数： 23人



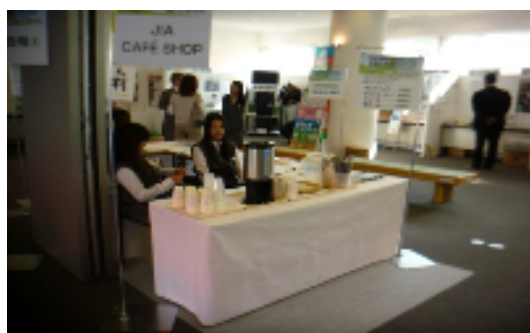
会場内風景・制作物



(受付)



(昼食会場)



(JIA Café shop)



(記念品)



(コンgresバッグ)



(スタッフ用ベスト)



(スタッフ用Tシャツ)

海外からの参加

① JIA協定団体

【参加者】

AIA クラーク・マヌス次期会長他2名 計3名
ASA タウィーチット・チャンタラサーカー会長他6名 計7名
KIRA チェ・ヨンジップ会長他2名 計3名
KIA イ・サンリム会長他5名 計6名
(合計19名)

※ KIRA 光州広域市より28名(JIA福岡・光州交流会)

【行動】

10月7日(木)

午 前 AIA会長夫妻の要望により、博多に案内(櫛田神社、博多町屋ふるさと館、東長寺見学)

午 後 全員で、小倉城庭園、リバーウォークを見学

夜 名誉会員の集いと、ウェルカムパーティーに分かれて参加

10月8日(金)

午 前 国際会議(AIA-JIA、FIKA-JIA、ASA-JIA)

午 後 全員で式典に参加

夜 全員でレセプションに参加

10月9日(土)

午 前 AIA会長夫妻は一足先に帰国

終 日 ASA、KIRA、KIA全員で門司港、下関ツアーに参加(門司レトロ地区、唐戸市場、下関水族館を見学)後、福岡空港より帰国



(小倉城庭園にて抹茶初体験)



(下関水族館にて記念撮影)

海外からの参加

② 福岡・光州交流会

【参加者】

28名(行政官1名含む)

【行動】

第1日(10/7)

9:30福岡国際空港到着

11:00博多小学校に到着西祐浩校長、中島健次教頭が出迎えてくれた。会議室で双方の挨拶、博多小学校のあゆみを西校長から説明その後授業中にもかかわらず校長自ら建物案内説明をしていただいた。

昼食後キャナルシティ博多、そして14:30にバスで北九州市に移動、松本記念館、リバーウォークを視察、日程を終えた。

第2日(10/8)

08:00 北九州国際会議場に光州会員28名集合、大会会場を見る

08:30 国際建築交流展テーブルカット

09:00 光州会員A班北九州市訪問グループ、B班エクスカージョングループに分かれ行動(A班北九州市訪問グループ)

北九州市役所の用意の小型バスに申正澈会長以下通訳含め8人、福岡会より栗山・森・九大学生通訳3名が同乗し市役所に向かった。残念なことに光州廣域市都市デザイン局洪起南局長他3名の行政関係者が公式訪問の予定が来福4日前議会の関係でこれなくなった。安鎔勲係長が市長メッセージをたずさえ訪問した。公式訪問から表敬訪問の取り扱いになった。

09:00～10:00 志賀副市長挨拶、安鎔勲係長の光州市長のメッセージ代読、宮武建築都市局長の都市計画、再開発について説明、意見交換の後、記念品交換、記念写真、なごやかな雰囲気の中表敬行事を終えた。

10:00～13:00 市用意の小型バスで北九州市大里地区の保存再生建築物、門司港レトロ地区の建物群を見学、宮武部長・樫本係長他市用意の通訳2名で案内を受けた。あいにく途中から小雨まじりの見学だったがキメ細かく説明を受け北九州市の都市建築行政の取組意欲を垣間見ることが出来た。遅い昼食をレトロ地区内でとる。

13:00～14:15 昼食後北九州国際会議場に到着後14:30からの式典基調講演に参加予定の北九州市訪問メンバー7名が一瞬の間行方不明のハプニング、B班エクスカージョングループのバス合流、後での話、日本語の式典に出てわからないから、急きょ別行動をとったとのことだった。(B班エクスカージョングループ)

光州会員21名旅行社チャーターのバスで旅行社企画のエクスカージョンに向かう。福岡会より誰も同乗できなかった事に申し訳なく思う。コースは市立中央図書館、市立美術館、門司ゴルフクラブ、唐戸市場、門司港レトロ地区を視察した。

18:00～21:00 レセプションパーティーでは北九州市役所訪問の7名を招待、大韓建築士会会長他多くの韓国建築家を交え楽しい時間を過ごした。

■あとがき

光州会員あわただしい北九州市訪問だったと思う。無事全員帰国の報を受け事故もなく終えたことに安ど。

特に今回の訪問には光州市と北九州市行政間の公式訪問が設定された。事前準備では北福岡会の服巻氏に労をとってもらい北九州市建築都市局指導部・宮武正三部長をはじめ多くの市関係者の協力を得て進められた。両市の行政間の友好促進にJIAが少なからず貢献出来たと思っている。今後益々友好が発展することを祈念し、関係各者の御礼の言葉にさせていただきます。

エクスカーション

- Aコース** CPD:6
関門ツアー 1日間
門司港レトロ散策と唐戸市場 (中止)
10月9日(土)
- Bコース** CPD:4
関門ツアー 半日間
門司港レトロ散策と唐戸市場 参加者: 11人
10月9日(土)
- Cコース** CPD:6
筑豊近代遺産ツアー 1日間
嘉穂劇場と旧伊藤伝衛門邸 参加者: 6人
10月9日(土)
- Dコース** CPD:6
北九州エコツアー 半日間
東田エコハウス見学と
北九州市立大学 参加者: 4人
10月9日(土)
- Eコース** CPD:2
産業観光ツアー
TOTO小倉工場見学 参加者: 22人
10月9日(土) 各自地現地集合・解散

賛助会一覧

※北福岡会賛助会

(株)イシザカ工業
(株)一木窯業
井上 定 株式会社
(有)エムテック太陽
有限会社 大野機工
(株)カナデン 九州支店
(株)カンパックス
九州日立空調(株)
株式会社桐井製作所
(株)クロサキ
小松ウォール工業(株) 北九州(営)
コマニー(株) 福岡支店
西部ガスリビング(株)北九州(営)
(株)三金
(株)三鋼建材
三和シャッター工業(株)福岡支店
ジャパンパイル(株)
(株)白石板金工作所
シンコー九州(株)
新日鐵高炉セメント(株)九州支店
有限会社 鈴商
(株)スピナ 緑化環境部
大栄(株)
田川産業商事(株)
(有)田代造園
田村産業(株)
ダントー(株) 九州支店
中外商工(株) 福岡営業所
津上産業(株)
TOTO(株) 北九州支店
(株)ナベシマ
南協商事(株)
西日本ダントー(株) 北九州支店
日興産業(株)
日本ヒューム(株) 北九州(営)
日本ペイント販売(株)
(株)プリト
(株)ピース三菱 九州支店
文化シャッター(株) 北九州(営)
水谷建設工業(株) 北九州(営)
(株)三養基
(株)ラスティング
YKK AP(株) 北九州支店
和田商事(株)
※福岡会賛助会
(株)アイ・エル・シー
アイカ工業(株) 福岡支店
旭ビルウォール(株) 西日本支社
(株)アラム
イーアンドイー・ジャパン(株)
(株)一原産業
(株)イトーキ 西日本支社
(株)INAX 九州支社
岩尾エンジニアリング(株)
(株)内田洋行 九州支店

梅野セメント工業(株)
(株)栄住産業 ピュアウッド工房
(株)イーアンドエーマテリアル 九州支店
(株)イービーシー商会 福岡営業所
FSテクニカル(株)
(株)遠藤照明
(株)オークマ
(株)小笠原
(株)岡村製作所 西日本支社
(株)鹿島技研
(株)カッシーナ・イクスシー 福岡エリア
(株)環境開発
(株)カンサイ
菊水化学工業(株) 福岡支店
木下緑化建設(株)
九州創建(株)
九州藤吉工業(株)
(株)九州都市システム
空研工業(株)
(株)草野
(株)ケー・エフ・シー 福岡営業所
(株)建鋼社
(株)建築資料研究社
コイズミ照明(株)
コクブ産業(株)
コクヨマーケティング(株)
サーマエンジニアリング(株)
三協立山アルミ(株) 福岡支店
(株)サンゲツ 福岡店
(株)サンケン・エンジニアリング
三晃金属工業(株) 九州支店
(株)三洋工業 九州システム
三和シャッター工業(株)
三和ネオン電機(株)
四国化成工業(株)
(株)尚健工業
昭和鉄工(株) 九州営業所
(株)スポーツテクノ和広 西日本支店
総合園材(株) 筑紫野営業所
(株)総合資格 天神支店
大光電機(株)
田島ルーフィング(株) 福岡営業所
立川ブラインド工業(株) 福岡支店
(株)TJMデザイン 福岡店
(株)テノックス九州
電気硝子建材(株) 福岡支店
(株)デンシヨク 九州営業所
東芝エレベータ(株) 九州支社
TOTO(株) 九州支社
東洋シャッター(株) 九州支店
東洋ステンレス研磨工業(株)
東洋テクノ(株) 福岡支店
トーヨーキッチン&リビング(株) 福岡支店

賛助会一覧

中村石材工業(株)
(株)西井塗料産業
西日本クリスタル(株)
日本コンクリート工業(株)
(株)西日本電波サービス
日本インシュレーション(株)九州支社
日本エンバイロケミカルズ(株)
日本オーチス・エレベータ(株)九州支店
日本オスモ(株)九州営業所
日本ヒューム(株)福岡支社
日本フネン(株)福岡営業所
(株)ノザワ九州支店
パナソニック電工(株)九州EC
(株)日立ビルシステム九州支社
福井コンピュータ(株)西日本支社 福岡営業所
(株)フジマック九州事業部
(株)プログレス
文化シャッター(株)九州営業開発部
三葉電機工業(株)
三菱電機住環境システムズ(株)九州社
三菱マテリアル建材(株)九州支店
(株)ミリオンテック
(株)メタルテック
ヤマギワ(株)福岡営業所
吉野石膏(株)福岡支店
YKK AP(株)

※長崎会賛助会

(株)アダル長崎営業所
(株)鹿島技研
旭栄産業(株)
(株)建鋼社 長崎営業所
コクヨ九州販売(株)
(株)コンステック長崎営業所
西部ガス(株)長崎支社
三協立山アルミ(株)長崎営業所
(有)渋谷製作所
(株)長崎消毒社
(株)長崎ベニヤ
長崎メタル(株)
日本オスモ(株)九州営業所
マツナガ防水産業(株)
ヤナセ産業(株)
ヤマギワ(株)福岡営業所
(株)ライムインモト
菱電商事(株)九州支社長崎営業所

※宮崎建築家の会賛助会

(株)鹿島技研
協和産業(株)宮崎支店
国際基礎(株)
(株)タケセン
(株)鎮西商会
(株)日米商会

日新興業(株)
日本板硝子(株)
双葉工業(株)
文化シャッター(株)宮崎営業所
宮崎ガス(株)宮崎支店開発課
(株)宮崎ガスリビング
宮崎施設機械(株)
米良電機産業(株)
リブレ(株)
YKK AP(株)宮崎支店

※鹿児島会賛助会

(株)イトーキ 鹿児島支店
(株)江藤建設工業
(株)鹿島技研
加根又工事(株)
(株)川崎塗料
(株)九電工
(株)桐井製作所 鹿児島営業所
コーアツ工業(株)
(株)小園硝子商会
(有)佐藤防水
三協立山アルミ(株)
ジャパンパイル(株)
住幸(株)鹿児島営業所
相和電気(株)
(株)タジマ 鹿児島営業所
立川ブラインド工業(株)
東陶機器(株)鹿児島営業所
東洋基礎工業(株)
トーヨーキッチン&リビング(株)
東リ(株)
トステム(株)ビル鹿児島営業所
(株)中澤
(株)ナカムラ
南国殖産(株)
南日防水工業(株)
南菱冷熱工業(株)
日本ガス(株)
(株)ハマテックス
不二サッシ(株)鹿児島営業所
フジマック 鹿児島営業所
文化シャッター(株)鹿児島営業課
ホーチキ(株)鹿児島営業所
ホシザキ南九(株)
(株)南九州エービーシー商会
(株)山崎商会
ヤンマーエネルギーシステム(株)
リリカラ(株)
YKK AP(株)鹿児島支店

学生によるレポート

2010年JIA25年賞シンポジウム
谷口吉生講演会「環境の中の建築」

日本文理大学 大学院一年
熊本 詞哉

2010年10月9日、北九州国際会議場にて建築家谷口吉生さんの講演会が行われました。今回はJIAの25年賞を資生堂アートハウスと土門拳記念館が受賞した事による講演でした。谷口さんは講演やシンポジウムをほとんど行わず、書籍も作品集や対談が多く、自らの設計手法について話をするということは極めて稀有なことです。講演の中で谷口さん自身おっしゃっていた事は「私は言葉ではなく、作品を通してのみ自分を表現しようと思っている」ということでした。谷口さんは作品主義と以前から評されていましたが、谷口さん自身の口からそのような事が聞けたことも珍しい事のように思います。

今回は、建築家協会における講演だったために、設計の手法、設計の際に気をつけているという設計活動の内実に迫る話を多くされていたように思います。

その中で印象に残っていることは谷口さんの話されていた設計の方針の中で一番単純な事、条件があること。敷地、まちなみ、与えられた条件がある。それらの条件の中で建築を作らねばならない。問題が多いほど建築が出てくる。問題がなければ解は出てこないものである。そしてもう一つは形態的なことよりも建築の基本を大切にする事。建築には「材料」を使います。どういう材料を使うのか。それから「光」。そして、空間を作る「プロポーション」を大切に考えながら建築を作っているということでした。

その話を聞いて私が思い出したのは丸亀市の美術館でした。丸亀の美術館は駅前にあり、それまでの谷口さんの作品としても、美術館としても敷地が素晴らしいものとはいえなかったと思います。美術館の隣にはランドスケープアーキテクに頼み、全体のランドスケープも監修しています。そのせいで駅前にたまりができ、人々の動きに変化があったのではないのでしょうか。」さらに谷口さんは大きな開口を置き、外と美術館の緩衝となるようにしています。この「プロポーション」によって人の動線をコントロールしていると思います。さらに内部ではエントランスに三層分の吹抜けを設置しています。これは豊田市美術館や法隆寺宝物館でも見られますが、谷口さんは吹抜けを有効的に使うことで光の垂直性を強く見せているように思います。

さらに谷口さんは話の中で都市と建築の関係ということもおっしゃっていました。それは建築の中には人の通る動線がある。それをどこまで導くことができるか、ということでした。そして建築の中に通り抜けできる道があり、ロビーやラウンジは広場になる。とくに動線には気を使われており、ここを歩くと景色がどのように見え、どのように光が入り、どこに目を向けるのか。といったところまで考えるということでした。これはその後の説明にも出てくる資生堂アートハウス、土門拳記念館等の作品にも関係するものとなります。都市と建築との関係というのは自然との関係でもあり、今回のテーマでもある環境の中の建築ということに繋がるのではないのでしょうか。

谷口さんが都市との関係を深く考え始めたのは、ハーバード大学を出て日本に戻られてから東大の丹下研究室に入られてからだということでした。当時の丹下研には磯崎さんや榎さんなどがいらつやり、谷口さんも「先輩から」いろいろなことを学んだとおっしゃっていました。さらに、資生堂アートハウスより共に設計された高宮真介さんも当時の丹下研でした。以上のことを踏まえた設計方法を資生堂アートハウス、土門拳記念館を軸にお話されていました。

その後、小倉さんとの対談の後、私は質問をしました。アートハウスから現在計画中の作品まで考え方の変化がない。ということでしたので「何か変化があれば」ということで質問させていただきました。答えは変わりたい。しかし周りが変わっていくから、相対的に変わらない。今では変わらないことを特色としたいと思っている。と話してくださいました。私はそこに谷口さんの強さを感じました。変わりたいけど変わらない。じゃあ変わらない。という心の強さを感じました。私には想像する人はある程度変わったほうが良いと話してくださいましたが、それでも私は変わらない。という温厚な表情からの心の強さのようなものを感じました。

全体を通して谷口さんの印象として、暖かさや鋭さを持った方だと感じました。講演や質問した私に対しての表情はとても優しく、穏やかで、にこやかにされていました。それに対して、小倉さんのお話、横河さんの質問の際などはとても真剣で、下手すれば怒っているのではないかというほどの顔をされていました。今日の写真で計画以外唯一今回の受賞作品、資生堂アートハウスに行けていません。至急行ってみたいです。私は谷口さんの作品が個人的にとっても好きなので、今回の講演を何よりも楽しみにしておりました。講演に参加させていただいた、金田さんをはじめJIAの皆様、足立さんをはじめとした+Aの皆様、本当にありがとうございました。

学生によるレポート

JIA 全国大会2010北九州 参加レポート

日本文理大学 西村研究室
川村 翔

まず今回の「JIA 全国大会2010北九州」に参加させていただき本当にありがとうございました。私が今回の「JIA全国大会2010北九州」に参加させていただき非常に感銘を受けたのは、普段接することができない全国の建築家の方々と接することができたことでした。

個人的には+A を通して大分の建築家の方々や建築関係者の方々とは濃いお話をさせていただいています。建築はやはりその土地での土着的な色合いが出てくるものだと感じております。その建築を考える背景というものを今回の大会参加、それぞれのシンポジウムの中で得られないかとの想いで参加いたしました。

まず得られたことは手塚貴晴先生とのご関係を持たれたことでした。会期前のシンポジウムでお話を聞く機会をJIA大分支部の方々からいただき、さらに手塚先生と名刺交換をさせていただく機会までいただきました。シンポジウム後ご連絡をしたところ、少しの間でしたが手塚先生とEメールでやり取りをさせていただき、今大会を通して大会外での繋がりを持つことができました。

シンポジウム「近現代建築の理解・活用とアーカイブス」では私が関わらせていただいている研究の内容と同一線上のシンポジウムでありまして大変勉強になりました。新たなアーカイブスに関する情報とともにシンポジウムの中で非常に興味深かったのは菊竹清訓先生の事務所に長年勤められた遠藤さんの生々しいお話でした。シンポジウム後の菊竹事務所の原図を見ながらのお話は気持ち遥か遠くに飛ばされるようでした。私個人は将来建築意匠設計に携わりたいと思っているので建築をつくり上げていく過程での現場のお話は貴重な体験となりました。

「25年賞シンポジウム」の谷口吉生先生の講演会はとても特別な機会、もしかしたら公的な場でお話を聞けるのは今後ないのではないかと感じておりました。もちろん建築的なお話は私自身のこれからの活動に非常に影響するであろうお話でした。そしてその話とは別に谷口先生の建築をつくられていく上での人間関係に関して興味を持ちました。これは今大会のシンポジウム参加・お手伝いを含めた全体を通しての話なのですが、建築家的な職種を考えるとある意味個人個人がライバルであるということが言えると思います。しかし今回の参加の中で肌で感じたのはそういったライバル関係にありながらも、かなり近いところでの人間関係が成立しているということで、建築に従事しながら建築を深めていこうという非常にハイレベルな人間関係があることでした。私個人的にはそのことに非常に感銘を受けたとともに大会参加の意義を強く感じました。私も諸先輩方のようにこの建築世界の中でいい建築を考えていながら素晴らしい人間関係をつくり上げていけるよう改めて努力の必要性を感じ、今回の参加の経験を活かしていかなければならない人材である一人だということの自覚をもちました。改めて今大会に参加させていただき本当にありがとうございました。またJIA 大分支部でもお手伝いをさせていただける機会がありましたら積極的に参加していきたいと思っております。

学生によるレポート

JIA25 年賞シンポジウム
谷口吉生氏 「私の建築- 25 年前と今」
日本文理大学 大学院工学研究科環境情報学専攻
花宮 亮

JIA25 年賞受賞をうけて、谷口氏はこの25 年間で振り返り、一貫した建築手法を用いていることを明らかにした。それは、内外を反転させ結び付ける手法(S字の動線)であり、周囲との関係で決定されるフォルムとテクスチャであり、敷地からくるストーリー性やメッセージ性に意識を傾けることである。また、この講演を進めていく前提として「環境」とは「周辺との関わり合い」であると定義し、今日の建築と環境の問題に対して谷口氏の在り方は一線を画していることをアピールした。以下、谷口氏の各作品についての特徴について記す。

< 資生堂アートハウス >

資生堂が収集した絵画等のコレクションを正方形平面に納め、CM アート等のコレクションを円形動線に沿って展示する。動線が緩やかにS字を描き、Sの始点、直線部分、カーブ、終点とで異なる方向を向き、外部の景色や光との関係が動線上で変化する。

< 土門拳記念館 >

戦時中にカメラマン達はネガフィルムを守る為にそれを地中に埋めた。写真家土門の作品を展示するこの美術館も半分地中に埋まっている。動線は直線的でありながら資生堂アートハウスと同様にS字で構成されており、風景の変化ならびに光の変化を建築内部に与える。

< 東京都葛西臨海水族園 >

対岸にある遊園地は夢の世界。周囲は緑で覆われ、内から外への意識はあえて閉ざされている。谷口建築は周囲との関係をもちながら成立する。水族園は外部の大きな水盤が、まるで海と繋がっているかのように重なり、周囲との関係を成立させている。

< 東京国立博物館法隆寺宝物館 >

形態や素材でなく、軒の出といった空間としての「日本的」が表現されている。

< ニューヨーク近代美術館 >

周囲の建築をつなげるようにそのフォルムとテクスチャが決められた。マンハッタンの街と近代芸術とが混じりあうように、動線上に窓をとり「いつ、どこで、なにをしている」の「どこ」にニューヨークを明確にあてはめるのである。

< 東山魁夷せとうち美術館 >

展示空間は外界とは切り離されているが、動線の末端で東山魁夷の生まれ故郷と繋がる。

< 広島市環境局中工場 >

広島市のゴミ処理施設の設計である。処理施設の本来の役割と、動線・景観の変化を対応させ、戦後、丹下のひいた都市軸をダイレクトに取り込み広島湾に開放する。

《所感》この講演ではこれまであまり語られてこなかった谷口氏の作品に対する言葉を得ることができた。設計が洗練されているからこそ、動線や内外の関係の話は繰り返され、これまで貫かれてきて谷口建築の根幹を成して来たのだろう。しかも周辺との係わり合いで生まれる建築空間は、今後も敷地や人を背景として、そのコンテキストに包まれながら新たな形態を生み出すことだろう。

記念写真

